

令和元年5月17日現在

機関番号：12611

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K16717

研究課題名(和文)日本の洋楽受容史におけるアメリカの影響 ヴォーリス建築にみるピアノの普及

研究課題名(英文) American-derived Western Music in Japan: The Diffusion of the Piano through the Architecture Planned by W. M. Vories

研究代表者

齊藤 紀子 (SAITO, Noriko)

お茶の水女子大学・基幹研究院・基幹研究院研究員

研究者番号：60769735

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：現存する建築、図面などの一次史料、関係者による記録物などから、多くのヴォーリス建築が楽器を備えていたことを示した。ヴォーリス自身、オルガンやピアノを弾くことができたが、洋風の自宅を構えようとする日本人に、居間(洋室)にピアノを備えることをすすめていたことがわかった。一部の建築については、現存するピアノや楽譜、レコードから、どのような音楽空間が築かれていたか、具体的に示し得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

建築を中心に築かれてきたヴォーリス研究に対して、音楽と深い関わりのある新たなヴォーリス像を音楽学の視点から提示した。また、日本で広く普及したピアノについて、住宅をはじめ生活が営まれた場に着目した調査により、この楽器が一般の人びとに広まる過程をよみといた。この点については、「ヴォーリスの諸活動にみる音楽の諸相：日本の教養としての音楽文化を考える」(JSPS19K12988)でひき続きとり組む。

研究成果の概要(英文)：Based on the investigation into the existent architecture, plans, multiple materials, and the interview with connected, this study demonstrated that the various architecture planned by W. M. Vories were furnished pianos. Vories could play the piano and organ, and he imported and sold the American-made instruments. He recommended the piano for the living room to the Japanese who tried to purchase the Western-style my-home. For example, the residence of Mr. and Ms. Komai at Kyoto has the collection of the piano, the gramophone, many records and scores.

In the biography of the secretary, Takagi Goro, Vories expressed music as forming cultivated personality. It is the assignment which I should work on hereafter I extend this research about the Vories's architectures to various projects (especially educational projects) organized by Vories in Japan(JSPS19K12988). And in long-term plan I'll analyze the lifelong learning of western music in Japan.

研究分野：音楽学

キーワード：洋楽受容史 ピアノ ヴォーリス アメリカンホーム 洋風住宅 家庭音楽 音楽学 近代日本

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) ピアノは、西洋音楽の主要な楽器であり、日本においても広く用いられているが、その普及史は主としてピアニストや演奏実践について論じられてきた。ピアノの受容史研究としてピアノが備えられた「場」(諸建築)に着目されることはほとんどなかった。

(2) ドイツをはじめとするヨーロッパ経由の洋楽受容に比べ、アメリカ由来の西洋音楽の影響は十分に議論されてこなかった。

(3) 博士学位論文(齊藤 2015)の執筆に際し、音楽雑誌『音楽界』(楽界社、1908-不明)にみる日本の家庭音楽論の動向と住宅改良会(1917年正式に発会)の機関誌『住宅』(1916-1943)で紹介されたピアノの諸様相を調査した。その結果、家庭音楽の流入経路として、従来のドイツを中心とするヨーロッパではなく、アメリカン・ホームの影響を強く受けている可能性が浮かびあがった。

2. 研究の目的

(1) W. M. ヴォーリズが日本で設計した学校や住宅など諸建築に関する現地調査ならびに文献資料調査を実施し、ヴォーリズ建築を通して広まったピアノについて実証的に示すことを目指す。

(2) ヴォーリズ建築においてピアノがどのように位置づけられていたのか、図面や写真、著述をもとに読みとき、明らかにすることを旨とする。

(3) 可能な限り、ヴォーリズ建築におけるピアノの実践事例を収集する。

(4) 長期的目標は、日本のピアノ(ひいては洋楽)受容史におけるアメリカ文化の影響を再考することにある。

3. 研究の方法

(1) 現存するヴォーリズ建築の現地調査

(2) ヴォーリズ自身、ヴォーリズ建築に関する文献資料の調査

(3) ヴォーリズとヴォーリズが築いた近江兄弟社の関係者を対象とした聴取調査

4. 研究成果

(1) 関西圏を中心に、現存するヴォーリズ建築を調査したところ、施工当初からピアノを備える建築が数多くあることがわかった。

(2) 洋風住宅を購入しようとする日本人に、居間にピアノを備えることを説いていたことがわかった。同時代の洋風住宅の手引書には、居間の調度品としてピアノを挙げるものが少なくない。ヴォーリズの場合、楽譜棚なども配置して実際に弾ける環境を整えることを重視している点が特筆すべきこととして挙げられる。

(3) ヴォーリズ建築は文化財に指定され、現存するものも多い。京都の駒井家住宅は、渡米歴のある駒井夫妻のために設計されたが、ピアノや蓄音器、レコード、楽譜も保管されている。関連する史料もあわせて考察し、具体的な音楽の実践状況を明らかにした。

(4) ヴォーリズが参照していたとされる米国の建築雑誌“Architectural Digest”をピアノの視点から調査した。ピアノを備える住宅が多く紹介されているものの、カリフォルニアの富裕層の邸宅の居間の内装写真に写り込んだピアノは、ソファと近接している、蓋が開けられないほど飾り立てられているなど、ヴォーリズの住宅設計観にみるピアノとは相いれないものであることを示した(雑誌論文)。

(5) ヴォーリズは、ミッション系女学校の設計も数多く手がけている。プール学院のように、学校史などの記録から、台風で被害を受けた校舎の再建をヴォーリズに依頼する前からピアノ

が備えられており、授業や学校行事で使用され、地域の西洋音楽文化の普及と結びつきがあり、新校舎の資金調達のためにも利用されている例もあり、教育機関におけるピアノの多様な役割が浮かびあがった(雑誌論文)。

(6)ヴォーリス自身、ピアノやオルガンを弾くことができ、自宅や建築事務所にも楽器を備え、アメリカ製のピアノやオルガンを輸入・販売していた。ヴァイオリンを弾くことができ、合奏を楽しんだ秘書高木五郎の伝記からは、ヴォーリスが「教養ある人格を造る」ものとして音楽を捉えていたことがわかった(雑誌論文)。

(7)コロラド・カレッジの学校史やヴォーリスが在学していた頃の校舎の調査から、ヴォーリス建築とそこに備えられたピアノのモデルの1つとして、同校が考えられる可能性が浮かびあがった。

(8)総じて、建築を中心に築かれてきたヴォーリス研究に対して、音楽学の視点から新たなヴォーリス像を提示することができた。洋楽受容史研究に対しては、ドイツの Hausmusik を中心に論じられてきた日本の家庭音楽について、音楽が実践された場(アメリカンホールをモデルとする洋風住宅)に着目し、ヴォーリス建築もまたピアノの普及に一役買っていたことを具体的に示し、アメリカ由来の影響を再考する意義を見出すことができた。

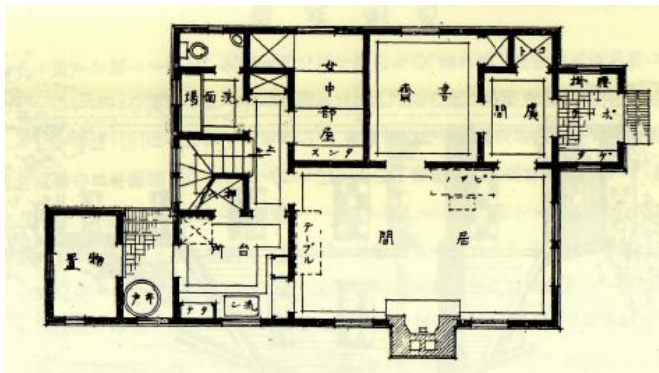
(9)ヴォーリス建築を通して広まったピアノについての調査を、ヴォーリスが日本で展開した諸活動(とりわけ教育活動)における音楽についての調査に広げ、ヴォーリスにとっての音楽がどのようなものであり、どのような経験・体験にもとづいて明らかにする新たな課題「ヴォーリスの諸活動にみる音楽の諸相 日本の教養としての音楽文化を考える」(JSPS19K12988)を構想した。この調査は、日本の教養としての音楽、生涯学習としての音楽について解き明かす調査の足がかりとなるものとして位置づけている。

<参考資料>

秘書の高木とアンサンブルを楽しむヴォーリス(ヴォーリス 1933 : 102-103 頁間)



ヴォーリスの住宅設計案にみるピアノ(ヴォーリス 2010 : 111)



近江セールズのミーズナーピアノの広告(ヴォーリス 2010 : 444)



<引用文献>

ヴォーリス, ウェリアム・メレル

1933 『若き音楽家の一生：高木五郎傳』滋賀：近江兄弟社圖書出版部．

ヴォーリス, ウェリアム・メレル (著); 内田青蔵 (編); 山形政昭 (解説)

2010 『ヴォーリス「吾家の設計」「吾家の設備」』東京：柏書房．

齊藤, 紀子

2015 『日本におけるピアノの普及に関する研究：三木楽器の帳簿（1902-1940）の分析にもとづいて』お茶の水女子大学博士学位論文、博甲第 144 号(人文科学) ； 207．

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

齊藤紀子、ミッション系女学校におけるピアノの様々な役割：三木楽器並びにヴォーリス建築のプール学院の史料をもとに、人間文化創成科学論叢、査読有、20、2018、241-249

齊藤紀子、『高木五郎傳』の最終章にみる W. M. ヴォーリスの音楽観：「教養ある人格を造る」音楽、お茶の水音楽論集、査読有、21、2018、11-17

齊藤紀子、W. M. ヴォーリスの住宅設計にとり入れられたピアノの背景：生活文化としてのピアノ、文化資源学、査読有、16、2018、1-16

齊藤紀子、三木楽器の帳簿(1902-1940)にみるピアノの販売網：取次商の調査にもとづいて、人間文化創成科学論叢、査読有、19、2016、107-115

齊藤紀子、三木楽器の帳簿(1902-1940)にみるピアノの購買者と社交：大阪企業家ミュージアムと大阪倶楽部を指標に、お茶の水音楽論集、査読有、18、2016、165-174

〔学会発表〕(計 6 件)

齊藤紀子、駒井静江のピアノの稽古：女学校出身者の趣味・教養としてのピアノの実践、日本音楽学会第 69 回大会、2018

齊藤紀子、小規模多目的施設におけるピアノ：ヴォーリス建築のモデルとしてのコロラド・カレッジ、日本音楽教育学会第 49 回大会、2018

齊藤紀子(コーディネーター兼パネリスト)、パネル 3『日本の洋楽受容史におけるアメリカ：ヴォーリス建築の駒井家住宅(京都)をめぐる音楽空間から』「家族新聞『団欒』(1924-25)にみる駒井夫妻と音楽」、日本音楽学会第 68 回全国大会、2017 *文部科学省特別経費(国立大学機能強化分)お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所プロジェクト「グローバル女

性リーダー育成カリキュラムに基づく教育実践と新たな女性リーダーシップ論の発信」助成
齊藤紀子、ヴォーリスの住宅設計観にみるピアノ：モデル誌 “ Architectural Digest ” の調査から、文化資源学会研究発表大会 2017、2017
齊藤紀子、ヴォーリスの住宅設計観にみるピアノ：講演記録『吾家の設計』及び『吾家の設備』をもとに、日本音楽学会第 67 回大会、2016
齊藤紀子、旧住吉村の社交にみる音楽活動：木曜会の『記録』をもとに、東洋音楽学会第 67 回大会、2016

〔その他〕（計3件）

お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所（編）、齊藤紀子、『文部科学省特別経費（国立大学機能強化分）「グローバル女性リーダー育成カリキュラムに基づく教育実践と新たな女性リーダーシップ論の発信」平成29年度成果報告書』、2018、113-115
齊藤紀子、文化資源学と私、文化資源学、16、2018、92-93
齊藤紀子、書評 国立音楽大学楽器学資料館(編)『ピアノ 国立音楽大学楽器学資料館所蔵目録』、東洋音楽研究、82、2017、92-95

6 . 研究組織

氏名：齊藤紀子

ローマ字氏名：SAITO Noriko

所属研究機関名：お茶の水女子大学

部局名：グローバルリーダーシップ研究所

職名：みがかずば研究員

研究者番号（8桁）：60769735

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。